

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立新居浜特別支援学校
学校番号 (54)

評 価 実 施 日		令和7年2月12日 (水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	加藤 博正	新居浜市社会福祉協議会中萩支部長	
	田中 政男	中萩校区まちづくり協議会会長	
	佐々木 龍	新居浜医療福祉生活協同組合理事長	
	白木 伸也	社会福祉法人わかば会 わかば共同作業所 (理事長)	
	大西 悦子	絵手紙サークル「ゆめの会」 (代表)	
	伊藤 義男	P T A会長	
	谷口 知子	P T A副会長	
	米澤 裕美	P T A副会長	
	谷 万悠子	P T A副会長	
	井上 陽子	P T A副会長	
	永易 美紀	P T A副会長	
	角 理恵	P T A副会長	
	松本 紘枝	P T A副会長	
	石川 義晃	P T A副会長	
評 価 ・ 提 言 等		提言等に対する改善方策等	
<p>1 学習指導 児童生徒一人一人に対して、個々に応じた対応をしている。障がいをもとにせず、個性を重視し、多様的に支援をすることが、児童生徒の活動に対する意欲につながっている。</p> <p>2 生徒指導 教師が児童生徒と関わる際に、良かれと思っただけの雰囲気関わったとしても、その子にとってはきついことを言われたと感じてしまうこともある。 児童生徒だけでなく、保護者との良好な関係性の維持も大切である。</p> <p>3 特別活動 本校の文化祭について、地域に公開し、地域の方たちとの関わる場として実施してほしい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き「分かる・できる・考える」授業実践に取り組む。その際には、児童生徒の実態把握を第一に、実態に適した教材教具を準備する。また、児童生徒が活動に見通しをもち、いろいろな体験を積み重ね、それぞれの活動に関連性をもたせることで、自信をもって主体的に取り組むことができるようにする。 ・ 教師の言動に対して、児童生徒それぞれの感じ方があるということを踏まえたうえで、適切な関わりをするよう心掛ける。 ・ 保護者の不信につながらないように、日頃から連絡帳等を使って、児童生徒の様子を伝えたり、意思疎通を図ったりするよう努める。 ・ 来年度の文化祭について、「開かれた学校」という観点からも公開の方法について検討する。 	

4 進路指導

キャリア教育が充実しており、特に高等部に入ってから技能検定や現場実習など、さらに充実したものとなっており、生徒たちのやる気が目に見えて分かる。

高等部卒業後の子どもたちへのフォローをお願いしたい。

5 安全教育

年間を通して実施している防災学習の成果が、年度末に期日非公開で実施される避難訓練で児童生徒も教職員も落ち着いて行動できていることにつながっている。

保護者が防災について学ぶ場が少ない。学校と保護者が一緒に災害に備えることが必要である。

6 業務改善

全国的に見ても教員を希望する人も減ってきていると聞く。教員一人一人の負担が大きいという状況のなか、先生方の心身の健康を心配する。

- ・引き続き早期からのキャリア教育の取組を積み重ね、よりよい進路実現につなげたい。
- ・就労の定着についての取組や進学後のフォローなど、引き続き行っていきたい。

- ・令和7年度には、新居浜市と学校で福祉避難所の開設を想定した訓練を実施する予定。その際に保護者の方にも参加いただけるよう検討する。
- ・学校に地域での防災訓練計画の情報が入った際には、保護者にお知らせする。

- ・校内の衛生委員会のなかで、管理職、部主事、養護教諭等で情報共有し、状況の把握に努め、必要に応じて当事者と面談を実施する。また、メンタルヘルスとして第三者が面談を行う。
- ・職場内での良好な人間関係がストレス軽減につながることを念頭に、上司に話しやすく相談しやすい環境作りに努める。